

2018年(平成30年)

第130号

(10月1日)

**平安月報**  
The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会  
 発行責任者：渉外部長 田中規之  
 編集委員長：渉外広報 植田恭司  
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230  
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

**私たちの暮らしを守る憲法について学ぶ ～新宗連・京都「憲法学習会」～**

9月3日、『平和憲法と国民投票』をテーマに「新宗連京都府協議会」による「平和学習会」が、立正佼成会京都普門館において開催されました。6教団から30名が参加しました。

安倍総理は昨年5月3日に、改憲派の集會に寄せられたビデオメッセージで「2020年を新しい憲法が施行される年にしたい」と意欲を見せ、さらに「憲法9条の1項と2項は残した上で、自衛隊の存在を明記する条文を加える考え」であることを明らかにしました。

これを受けて、新宗連は全国で学習会を実施することを決め、その一環として京都でも実施することになりました。今回の学習会では新宗連の山田匡男総局長を講師として迎えて行われました。

憲法問題という難しいものという感覚をもっている聴講者でしたが、ユーモアたっぷりの講演に、楽しく学ぶことができ、避けて通れない重要な問題だと認識することができました。参加者はこの話を各教団に持ち帰って、みんなに伝えていきたいと述べていました。



2018.09.03

～講演の趣旨～

■新宗連の結成

新宗連は1951年に結成されたが、戦前・戦中に弾圧されていた宗教団体が、「信教の自由」を守ること、二度と戦争を起こさないという「絶対非戦」の精神を貫くことを信条として活動してきた。

■信教の自由

戦前の大日本国憲法においても「信教の自由」は保障されていた。しかし、「安寧秩序を妨げない限り」という条件付きであったため、時の権力者の考えによって多数の宗教団体が弾圧された。

この付帯条件が憲法の条文に書かれることは、権力者に利用されることを物語っている。今の憲法には「信教の自由は何人に対しても保障する」と定められ、明治憲法のような制限は書かれていない。

■絶対非戦

絶対非戦は、「二度と戦争は起こさない」「国際問題を武力で解決しない」という精神に立脚している。

新宗連青年会が中心になって行っている「戦争犠牲者慰霊及び平和祈願式典(8・14式典)」や、昨年11月に行われた集会で北朝鮮問題を平和的に解決するよう祈りを捧げ、政界に対して武力でなく対話と協調により問題解決するように訴えた。

■問題の多い国民投票

憲法は国会で3分の2以上の賛成によって発議され、国民投票で過半数の賛成があれば改正される。しかし、投票総数の過半数であり、国民の1/2ではないので、少数の人の賛成だけで改正されることもある。

昨今の国会の状態では、憲法改正について、国民に十分説明しないまま、国民投票になる可能性が高い。よく分からないと投票に行こうとしない人が多くなり、組織票をもつところが優位になる。だからこそ、この問題をしっかり学び、第一歩を踏み出すべきだ。

時事刻々

二十一日に京都三大祭のひとつ、時代祭が行われます。延喜から明治に至る時代風俗行列は圧巻です。海外からの参観者も多く、沿道には豊かな国際色が見受けられます▼先頭で笛や太鼓を奏しながら行く「維新勤王隊列」は『山国隊』がモデルです。山国隊は幕末期に京都市の北の山国郷(現・石京区京北)で結成された農兵隊です▼平安京造都の木材を供給していたこともあり、皇室との関係が深く、幕末に王政復古の募兵に際して農兵隊が結成されました。その後、戊辰戦争で各地を転戦し、鼓笛を奏して京都そして山国に凱旋しました▼山国隊は自弁でありました。膨大な借金がありました。名主たちが山を売るなどして返済しました。これ以来、山国隊は郷土の誇りとして今に続いています▼山国隊が見せた無償奉仕の精神は、皇室とのゆかりの地という風土から生まれたものでしょう。後世のためにより歴史をつくることも、今を生きるものの役目なのでしょう。

平成30年、私たちは「勇気をもって 私らしく やってみよう」を実践して参ります。



## 脇祖さま報恩会に今井教学委員長 ～日常生活の中に信仰を～

9月10日、脇祖さま報恩会が行われ、多くの会員が参拝しました。

式典は読経供養、讃嘆歌斉唱、やくしん私のイチ押し発表、体験説法、ご講話と続きました。

やくしん私のイチ押しでは乙訓支部文書担当の村田さんが発表。法座は佼成会の命で、正直に打ち明けることで自分を高め、他を利することから、自身も他の人の悩みを自分のこととして受け止められるようになってきたと述べました。また支部での月一回ファミリー講座では開祖さまの法話集「菩提の萌を發さしむ」をテキストに開催、気軽に人と話すのが苦手だった自分が徐々に変化してきたと報告しました。

体験説法は中央支部の林支部長さんが、自閉症の子育てを通して、相手の話しは根気よく待つこと、相手が納得できるような話し方に努力できる自分に変化してきたと報告。その経験を活かして、現在支部長として支部内から様々な意見や思いを聞かせて頂くように

なり、関わりの中で会員さんが家庭実践して救われたことを発表しました。そして会員さんが惜しみなくつながらるように励みたいと決意を述べました。

講話に立った今井克昌教学委員長は、大学生時代に京都教会右京支部で青年部員として活動していて、当時の滝口教会長さん、永田事務長さんをはじめ学生部、青年部の皆さんにお世話になったと述懐した。やくしん発表や体験説法にもふれ、私たちは誓願して娑婆世界に生まれてきており、林支部長さんこそ誓願されて病気を持つ子供の親になりたいと誓願されたに違いないと述べた。

また脇祖さまのご生涯を紹介。厳愛の二法で根性を切り替え、子供の非行、借金問題、主人の浮気等から多くの方が救われてきたと述べた。

最後に佐藤教会長は謝辞の中で、佼成会の信仰は「信仰即生活」だと述べるとともに、お師匠さまのご指導やお姿を身近に感じるように心掛けたいと結ばれた。

## 秋季彼岸会 ～命の尊さをかみしめて～

9月23日、秋季彼岸会が教会法座席で行われ、戒名読み上げ者、参拝者が多数参加しました。

式典は奉獻の儀、手紙披露、読経供養、説法、佐藤教会長の言葉と続きました。

説法では不妊治療の結果、結婚17年目に授かった息子が学校で先生にきつく注意されたことを通して、息子の性格が優しいことや誰よりも努力していることはお母さんが一番よく知っていると言えたと発表。そして、家庭が安らぎのある場所であるようにと息子のことで家族が一つになれたことや自分自身も親の思いが分かったと述べられました。

佐藤教会長は言葉の中で、今回の彼岸会のテーマが「宇宙まで届く先祖供養」であることにふれ、23日に日本が打ち上げた「こうのとり」が宇宙ステーションまで物資を運んだことや「はやぶさ2」の探査機が

惑星に到着したと報告。その因縁の不思議さを述べた。

また説法の内容に触れ、簡単に人は生まれてこないことと命の尊さを述べた。授かった命も病気などになることもあるため、家を港に例え、エンジンを止めて点検してリフレッシュする基地が港であり、家であると説明。出港する時、帰港する時に手を振るように家庭でも出来ると理想的だと解説した。

また回向文の解説を行い、釈尊は長い間、難行苦行され休むことはなかったように、「急がず、休まず」が大切であって、お彼岸の期間だけ功德を積むというのは感心しません、と述べた。

最後に徳は耳からではなく、目から入るため、徳のある人になるためには自分の行いを美しくし、「あの人のようになりたい」と思ってもらえるように、常精進の大切さを述べ、結びとしました。

## 日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

今年から始まる新コーナー。言葉のルーツを知って仏教に親しみをもちましょう。

### 【畜生（ちくしょう）】

仏教では、輪廻（生まれ変わりをすること）の世界のうちの三悪道のひとつに「畜生道」がある。考えがなく、動物的な本能にまかせて行動することをいい、そんな人生を送った者は、人間以外の動物に生まれ変

わるという。やがて、生き物のうち、人間以外、特に獣を指し、さげすんでいう言葉になった。

普通、「ちくしょう！」というときは、人をののしったり、自分自身に腹を立てて自虐的に使われる。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

### 記事募集のお知らせ

読者のみなさんから記事や写真・絵を募集します。年齢、性別は問いません。教会までお送り下さい。

- ・敬老の日の思い出
- ・学校の運動会、地域の運動会の思い出や写真など

# 庭野日敬開祖 法話集 ~開祖隨感より~

10月は、全国各地で「お会式」が行われます。そこで今回は、共に比叡山で学び「宗祖」となられた、日蓮聖人・道元禪師のお言葉から、学んでみたいと思います。 (編集部)

### 【大恩を知る】

この人生でなによりも大事なものは、自分自身を知ることです。その本当の自分に気づかせてくれるのが、宗教なのです。小学校から大学まで、あり余るほどの知識を詰め込んできていながら、そのいちばん肝心かなめのところを教わらず、そこを突き詰めて考えようとしない人が、多くなっているように思えます。それをつかまないと、物や金だけを頼りにして、それに振り回される生き方に流れがちなのです。

人は自分一人だけの力で生きているのではなく、生かされている自分であることを知ってこそ、どう生きるのが本当の生き方なのか分かってきます。周囲の社会と切っても切れない関係でつながり、まわりによって生かされている自分の責任を、どう果たしていくか。その大もとが定まらなると社会でのさまざまな関係が整っていかないのです。

日蓮聖人は『報恩抄』で、父母の恩、師の恩、国の恩に報いる大切さを教えられています。自分がこの世にあるその恩を知ること、自分の生き方が定まってくる。現代の社会のさまざまな問題の根は、一人ひとりが尊い命をいただいているその大恩を教えなくなったところにあるように思うのです。

### 【子を持って知る】

「信なしに法華経を行じようとするのは、手を使わずに宝の山に入るようなものだ」と日蓮聖人は仰せられました。せっかく功德の宝庫であるご法の縁に触れながら救われずにいるのは、本物の信をつかんでいないからなのですね。どうしたら、その信をつかめるかです。

「子を持って知る親の恩」という言葉があります。ご法の修行も、本当に法に入ったといえるのは、導きの子ができたときです。人をご法にお導きしようという

のは、一筋縄でいくものではありません。いろんな方便を考えて、何度も繰り返し繰り返し話してあげなければなりません。「なんとしても分かってもらいたい」と、心から念じなくてはなりません。

それこそ親がわが子のことを心配するように、あれこれ気を配っているうちに仏さまのお慈悲が身にしみて分かってくるのです。そうして一人の人を本当にお導きできたとき、自分もちゃんと法にかなった行ないができるようになっていくのです。

私が「一人が一人を導いて、みなさんにご法の親になっていただきたい」とお願いしているのも、この宝を自分のものにしてもらわなくては私の役が果たせないと思えばこそなのです。

### 【一期一会 (いちごいちえ)】

この世のことは、あつというまに移り変わっていくものだとは分かっている、それが身にしみて分かるのは、ある年齢になってからなのかもしれません。それまではつい、またいつでも習える、いつでも見られる、いつでも会えると、一日一日の大切さ、一つ一つの出会いのかけがえのなさに気づかずに過ごしてしまうことが多いのではないのでしょうか。

ある人が道元禪師に、「学道を心がけて何年にもなりますが、一向に悟るところがありません。なぜなのでしょう」と尋ねたのに対して、道元禪師は、こう答えています。「それは、本気か本気でないかの問題だ。本気になれないのは、この世の無常をわが身に実感していないからだ」と。

家族の一人ひとり、毎日起こる出来事の一つ一つ、教会道場でのさまざまな人との出会いを、もういちど見直してみたいものです。同じ毎日、同じ人たちが、まるで違った感動をもって見られるようになってくると思うのです。 (つづく)

## 10~11月の主な教会行事

10月1日(月)	9:00~	朔日参り
4日(木)	9:00~	開祖さま入寂会
10日(水)	9:00~	脇祖さまご命日
13日(土)	9:00~	日蓮聖人遠忌法要
15日(月)	9:00~	釈迦牟尼仏ご命日
11月1日(木)	9:00~	朔日参り
4日(日)	9:00~	開祖さまご命日
10日(土)	9:00~	脇祖さまご命日
11日(日)	10:00~	七五三式典
15日(木)	9:00~	開祖さま生誕会

## ●メッセージ

先月16日に“歌姫”と言われた安室奈美恵さんが芸能界を引退し、一般人になりました。1年前の発表にはじまり、その日を迎えるまで様々なイベントが開催されたようですが、引き際の潔さに彼女の達成感も伝わってくる思いです。過去に歌姫と言われた方でも、山口百恵さんにも同様の印象を受けます。仏教では執着することで苦が生まれるとする教えがあります。彼女の行動から執着しないことの大切さを教えてもらったような気がします。今後、京都市内の高級マンションに住むとか…。そっとしてあげたいものです。